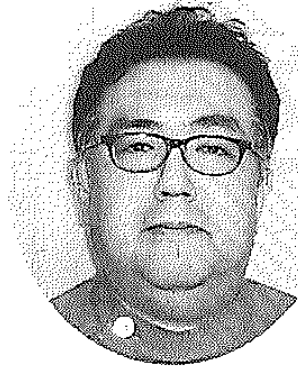


平成22年4月22日 湖畔時報 掲載

ひろば



介護職員の苦勞

医療法人 正和会

介護老人保健施設ほのぼの苑

施設長 小林 顯

(潟上市)

人間は幼い頃は母親の

介護で育つ。そして年を

取って病で床に伏すと家

族やヘルパー（介護員）

の介護を受けて命をつな

ぐ。私が仕事をしている

介護老人保健施設（老

健）は、重病になったご

老人が病院を退院した
後、社会復帰できるよう
にリハビリを行う施設で
ある。

そんな老健の土台を支

えている縁の下の力持ち

が、職員の大半を占める

介護職員である。介護職

員の仕事は施設を利用さ

れる方の、食事、更衣、

入浴、排泄、移動、など

の生活全般の介助が主で

あるが、その他に力を入
れていることは利用者の
方々が日々の生活で、よ
ろこびを感じることで
きるようにお手伝いする
ことである。

人の一生は終わりが良
ければ、いい人生だった
ということになる。介護
職員はすべての利用者が
世界に二つとない自分だ
けの人生を全うできるよ
うによるこびづくりの日
々苦心している。若い女
性介護職員が「ご老人た
ちともう少し話ができた
ら、気持ちも分かってあげ
られるのに。もどかし
い。」と言っていた。

認知症や言葉の障害を
持つご老人の気持ちを分
かってさし上げられない
ときや、こちらがほかの
介護の仕事で忙しくて話
をする時間が十分に取れ
ないときなどが一番つら
いということであった。

近い将来、介護職の社
会的評価は格段に高くな
り、まわりが憧れる職業
になることを私は信じて
疑わない。

近い将来、介護職の社
会的評価は格段に高くな
り、まわりが憧れる職業
になることを私は信じて
疑わない。